

市民と市長との対話集会（テーマ：通年観光） 春日山エリア
主な意見交換の内容

開催日：令和5年8月28日（月）

会場：上越文化会館 4階 大会議室

参加者：21人

テーマ：謙信公を感じることができる春日山城跡

（参加者）

- ・通年観光計画策定支援業務委託には、報道を見る限り、明らかに何かあると思わざるを得ない。
- ・プロポーザルの制度を悪用している。一社が優遇されるような仕掛けが作られているのではないか。
- ・何もないところに、Essaからの提案があり、渡りに船で飛びついたのでないか。
- ・市議会が市民の敵になっている。市議会もEssaが選ばれるプロセスに取り込まれているのではないか。本来、追究するのが議会の仕事。

（市長）

- ・Essaとつながっていて、優遇したということは今までのプロセスから無い。その点について報道されているような内容のことは無いと思っている。
- ・市議会に対してEssaがプロポーザルの候補になっているということは一言も伝えていない。

（参加者）

- ・「通年観光」と言うが、この地は豪雪地帯であり、冬の観光をどのように考えているのか。
- ・季節型観光を軸に集客を伸ばした方がよいのではないか。季節型観光が発展して、次第に通年で観光客が来るのが自然の成り行きだと思う。

（市長）

- ・オーストラリアの方がたくさんスキー場に来ているが、実際はずっとスキーをしているわけではなく、金沢や長野、富山で観光をしている。そういった方々に、雁木町家や鉄道の除雪など、雪国の文化を見ていただける場所をきちんと作れば、印象に残る。
- ・通年で見ていただける拠点を集中的に作っていかなければならない。

（参加者）

- ・レガシー形成事業について、「復元」という文字が先行していて、一般の人は春日山に城

が立つと誤解してしまう。市は一刻も早く正確な情報発信をするべきだと思う。

- ・春日山の麓（春日神社付近）は近年宅地化が進んでいる。春日山城跡保存管理計画では、遺構や景観に及ぼす影響が軽微なものに限るとなっているが、これが本当に軽微なものか、現地を見てほしい。春日山の原風景が著しく毀損されている。

（参加者）

- ・レガシー形成事業で、城の復元という話が出てきたが、若い人達は本当に城の復元を望んでいるのか。春日山を観光の三本柱の一つとして願っているのか。

（参加者）

- ・春日山は国指定史跡であり、ほとんど建物が建てられない、地形も改変できないというエリアである中、レガシー形成事業では、何をどう活用して、何をどう作っていくつもりなのか。市はどのような計画を考えているのかお聞きしたい。

（市長）

- ・レガシー形成事業については、国が調査を実施した後、市に対して提案を行うもの。レガシー形成事業の中で実際に復元が決まるわけではない。
- ・空堀や土塁が復元される可能性はあるだろうし、設計図が残っていれば建物の復元もあるかもしれない。もし残っていればという前提のもの。今は何も決まっていない。
- ・これから私たちが示す通年観光計画は、そのあたりも踏まえてのものになってくると思う。
- ・皆さんの意見も参考にしながら、通年観光計画を作成していきたい。

（参加者）

- ・現地を視察したうえで、打てる手はすべて打っていただきたい。

（市長）

- ・承知した。

（参加者）

- ・地域協議会の観光部会として、近々意見書を出す予定でいる。
- ・私たちの一番のコンセプトは「地元の人たちが春日山に慣れ親しんで楽しめる」こと。現状を把握した上で、遊歩道を整備したり、春日山をフラワーパーク化しようと考えている。

（市長）

- ・意見書をお待ちしている。

(参加者)

- ・埋蔵文化財センターの北側の広大な土地を、例えば「けやきの森大公園」に生まれ変わらせてはどうか。

(市長)

- ・どういうものをどこに植えていくのかは、皆さんと話し合いながら決めていきたい。

(参加者)

- ・通年観光は、何をもってゴールと考えるか。
- ・数値的な目標を示してもらいたい。

(市長)

- ・一つの分かりやすい目標として、上越妙高駅に「かがやき」を停めたいと思っている。
- ・1日あたり1万人の乗降客数を目指していかなければいけない。

(参加者)

- ・埋蔵文化財センターに並列して物産センターを作り、そこに、食事処や土産物屋があると、お客さんは喜んでくれる。

(参加者)

- ・食事処、土産物屋、綺麗なトイレが無いと、お客さんを受け入れられる環境にならない。
- ・妙高の鮫ヶ尾城は、お茶や漬物を出してもてなしてくれる。

(参加者)

- ・春日山の本丸まで行く道が荒れ放題になっている。道路や駐車場を含め、基本的な整備をしてほしい。

(市長)

- ・埋蔵文化財センターの周りをメインに、土産物屋、飲食店、喫茶店などを集中的に作っていかねばならないと考えている。
- ・春日山の下の方に駐車場を整備をしながら、春日山駅からのアクセスとして、二次交通も整備していかなければならない。観光地には綺麗なトイレの整備も必要となる。

(参加者)

- ・春日山の核になるスポットは何か。
- ・メインのターゲットのイメージを教えてください。

(市長)

- ・ターゲットはファミリー層や友達関係。外国の方々に、特に雪のないところからの誘客には力を入れていきたい。
- ・拠点施設としては、メタバースで合戦の体験ができるなど、デジタル技術を大いに活用していきたい。

(参加者)

- ・「利き酒マラソン」など、すでに行っている取組がある。飲食できる場所にしても、春日山マップに飲食店が多数載っている。新しいものを作るだけでなく、今あるものも含めて通年観光を考えてほしい。

(市長)

- ・馬上盃を持ってマラソンをするなど、色々なアイデアを出してほしい。

(参加者)

- ・高齢化も見据え、登りやすい山城の整備を考えてほしい。
- ・「冬キャンプ」で売ってはどうか。

(市長)

- ・豪雪に耐えてきた文化を、皆さんに見てもらえるような拠点を作っていかねばいけない。

(参加者)

- ・通年観光でどのくらいの誘客を目指しているのか。実際に来ているのは、武将や城マニアが多い。
- ・今後のイベント観光と通年観光の考え方を示してほしい。
- ・謙信公祭で出陣行列に参加してくれた人は、確実に上越市のファンである。そういったつながりを大切にすべきだと思う。
- ・謙信公フィールドミュージアム構想をどう評価しているのか。通年観光との整理はどう考えているか。

(市長)

- ・この地域には基本的にお宝は残っていない。米沢市からお借りできるのがあれば借りたいが、今のところ明確には言えない。刀などはできるだけ集めたいし、レプリカでもいいので作っていきたいが、お金がかかる話なので、どこまでどうするかは、これから計画の中で決めていく。

(参加者)

- 中川市長への感謝（市長は環境、観光分野に力を入れている。こういう場を設けてもらってありがたい。）

(市長)

- この事業は、市役所の職員だけでは空振りになる。やはり地元の人たちが熱意を持って、自分たちの地域の誇りを守りながら、次の世代に伝えていくことが重要。
- これからも皆さんと共に歩んでいきたい。